

令和元年度（2019年度）産山学園便り

# 夢創造

令和元年10月2日（水）no.19 文責：上田

秋の気配 じっくり計画的に

## 『産山村 家庭学習の手引き（第2版）』の活用を



秋本番。朝夕はひんやり、夕焼けの空にうろこ雲も見られます。今年は冷夏で西日本の稲の作況は「やや不良」との報道もあっていますが。

学園の10月は1学期末で1年の折り返しの時期でもあります。学級目標や個人目標を振り返り、実りの秋を学校生活でも感じてほしいと思います。仲間と互いの成長を認め合い、課題は課題としてさらに進取の気持ちを忘れることなく学習はもちろん様々なことにチャレンジしてほしいと願っています。部活動や英語暗唱、音楽会、駅伝大会等も、自分を表現できる大切な機会です。計画を立てメリハリのある生活、健康な生活をご家庭とも歩調をそろえ取り組みたいところです。

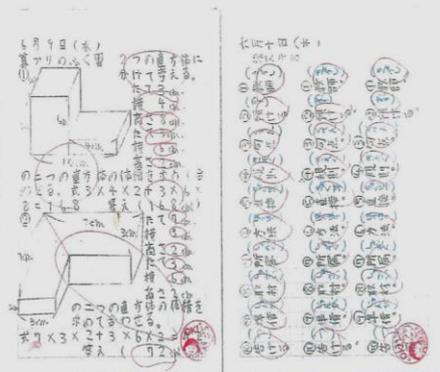
さて、産山村では『家庭学習の手引き（第2版）』を年度初めに各家庭に配付しています。この機に、子どもの家庭学習はどうか、振り返ってみる意味でも活用をお願いします。9月に全国学力・学習状況調査（4月6・9年生対象）の結果が届き、学校・教育委員会でその考察を行っていますが、質問紙調査「Q18学校の授業時間以外、普段1日あたりどれくらいの時間勉強（またはQ19読書）していますか」で、県あるいは全国と比べ短いという児童生徒が多くいます。『家庭学習の手引き（第2版）』では「家庭学習の3つのポイント」その①で、前期には「学習の土台を築く（1・2年）」「規則正しい生活の再確認と見直し（3・4年）」「今一度、基本的な生活習慣の見直し！（5・6年）」、後期には「予習・復習の習慣を身につける（7・8年）」「めざす進路を具体的に決め、計画を立てる！（9年）」といずれも“習慣化”の大切さが示されています。まさに“継続は力なり”です。自主学習と宿題の違いについては私なりにまとめ、裏面に掲載しています。自主学習ノート例とともに、是非、ご一読ください。

『家庭学習の手引き（第2版）』が家族の誰もが目にする所におかれることも効果があると思います。子どもの学年のページだけでも再読いただくよう重ねてお願いします。

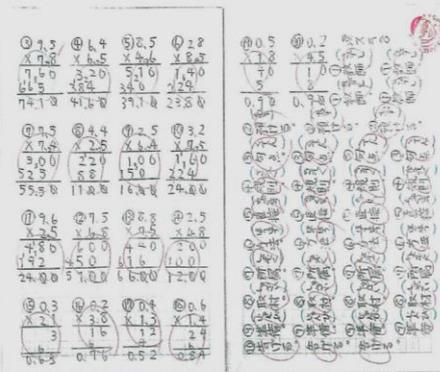
自主学習と宿題との比較 ●：プラス面 ▲マイナス面

	自主学習	宿題
子ども観	●子どもは学ぼうとする存在であり、任せると自分から学ぼうとするものである。	▲子どもは放っておいたらさぼってしまうので、勉強させる必要がある。
学習内容	●学び方を学んでいるので、いろいろなことに活用できる。 ●調べたりするので、工夫が生まれる。 ●予習や復習、調べ学習など多様なメニューがある。 ●それぞれのつまずきや課題にあったものに取り組みめる。 ▲サボることができてしまう。	▲学習内容を学んでいるので、使える知識が限定されてしまう。 ▲クラスが一律に同じことをやる。 ▲学習内容が決められているので、工夫が生まれにくい。 ▲内容が主に復習になる。 ▲学力が中位の子に合った内容が出される。 ●さぼると見つかってしまう。
意欲	●家に帰ったら自分から始める。 ●自信がついてくると、自分からやり始める。 ●おもしろいのでやりたくなる。 ▲内容を自分で考えるので、浮き沈みがある。	▲学習に受け身となってしまふ。 ▲やらされていると感じ、意欲的になれない。 ●見通しが立っているので気軽にできる。
個人差	●学習量が個人によって異なる。 ▲誰もが初めからできず、練習が必要。 ▲身につくまで時間がかかる。	▲学習時間が個人によって異なる。 ●授業の内容なので誰にでもできる。 ●平均的な学習内容を身につけられる。
クラスづくり	●クラスみんなで学び合っている。 ●友達と交流が生まれる。	▲個人で取り組む。 ▲友達との交流はあまりない。
計画力	●自分で学習をデザインする力が身につく。 ▲見通しがもてるまで時間がかかる。	▲言われてやるので、計画する力は身につかない。 ●復習のためやり方の見通しが立ちやすい。
ノート	●年間数十冊のノートが見える化され、自信になる。 ●ノートづくりが上手になる。	▲積み重ねが見える化されにくいので、なかなか自信につながらない。 ▲ノートづくりにはあまりつながらない。
継続	●次の学年で個人として始められる。	▲今年度限りの取組となる。

高学年

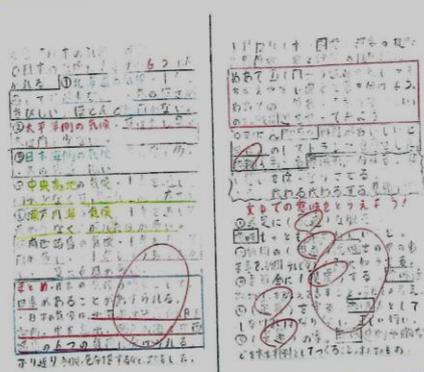


国語、算数。定規を使って図形を書いて問題を解く。問題集に載っている図形を描くことで立体を把握。先生からはこの調子、この勉強いいよというメッセージをこめて、OKのスタンプが。

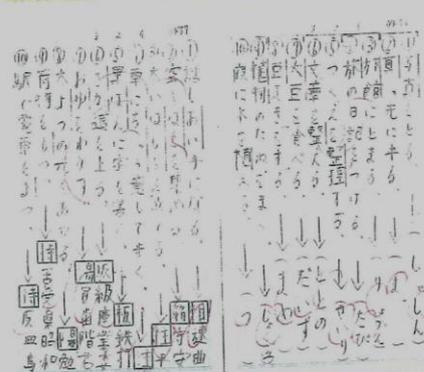


国語、算数。自分のためにきれいに書く。きれいに書くことで、あとで振り返って復習をするときにもわかりやすい。ノートの答えの部分隠して、もう一度取り組む小学生もいる。

中学年



国語、社会。めあてをしっかりと書くことで、目的意識を持った勉強ができる。社会では、調べること色で書き、下線を引くことで頭に入りやすした。まともを書くことで大きな視点から確認し、プレゼンテーションの基礎をつかむことができる。



国語。例文の漢字の読み(右ページ)やひらがなを漢字にする(左ページ)。例文を書き写すことで、どのように使われているのか頭に入る。書くことで覚える勉強。